

曙川南中 3年生学年通信

令和元年 6月28日(金)

☆7月の行事予定☆

日	月	火	水	木	金	土
	1 集・月2~6 放課後学習会	2 逆校時	3	4 学年サークル (体育館) 16:00~	5 放課後学習会	6
7	8 月2~6・金5	9	10 クラブ写真撮影	11 今学期給食終了	12 保護者懇談① 金1~4 (45分×4限)	13
14	15 海の日	16 保護者懇談② 火3~6 (45分×4限) 中央議会 (執行部・委員長 は昼食必須)	17 保護者懇談③ 月3~6 (45分×4限)	18 保護者懇談④ 水3・集・特・大掃 除 体操服登校	19 終業式	20
21	22	23	24 3年学習会 (図書室) 9:00~11:00	25 3年学習会 (図書室) 9:00~11:00	26	27
28	29	30	31			



～修学旅行感想文～

修学旅行の感想を一部紹介します。

「終幕への序章」

今回の修学旅行は、僕にとって特別な思い出になりました。平和の礎や資料館にあった現実に僕は驚きを隠せませんでした。新里さんの話から浮かんだ景色、ガマの中で浮かんだ景色、すべてが悲惨で、74年前には笑顔という言葉はなかったのではないかと思います。2日目は、遊ぶことのできる喜び、楽しさを知ることができました。マリン体験も民泊も楽しかったのですが、74年間でここまで変わったことに驚きました。時代の流れから見ると、74年間はとても短いと思います。それなのに、平和を語る事ができるまでにきれいな景色が変わったことに感心しました。僕にとって楽しく、考えることの多い、修学旅行になりました。

(1組 男子)

「修学旅行」

2泊3日の修学旅行では、戦争がどれほど残酷なものか、一回の戦争でどれだけ多くの人が亡くなったのかなどを勉強し、戦争は絶対にしてはいけないと思いました。また、普段私たちが当たり前に生活出来ているということがどれだけ幸せなことなのかわかりました。そして、育ててくれている人に感謝の気持ちを忘れないで毎日进行しようと思いました。今はとても綺麗な海が、戦時中は爆弾や遺体で埋まっていたと思うと本当に残酷なことだと思いました。けれど、今ではこんなにも美しい島なので、これからもこの美しさを守っていけるように一人ひとりの力が必要だと思いました。(1組 女子)

「修学旅行」

私はこの3日間すごく充実していたと思います。3日間友達と過ごすことも、沖縄に行くことも初めてだったので、初めてがいっぱいの修学旅行でした。私は平和の礎を見たときに沖縄にきたことを実感しました。その礎に刻まれた名前を見て歩くと、こんなにもたくさんの方が亡くなられたのだと改めて感じました。資料館の写真は、目を背けたくくなるようなものばかりでした。戦争を経験された新里さんのお話は、聞いていて悲しくなり、泣いてしまうこともありましたが、戦争のことは思い出したくないはずなのに、このように後世まで伝えて下さることはすごくありがたいことだと思います。年月が経つにつれて戦争を経験された方は少なくなってしまうので、私たちが次の世代に語り継ぐことが大切だと思いました。

楽しいこともたくさんありました。2日目のマリンスポーツは梅雨の時期にも関わらず、良い天気で気持ちよかったです。特にドラゴンボートが楽しかったです。民泊はマリンスポーツに負けない楽しさでした。読谷村から出る離村式では、寂しかったけれど、また沖縄に来て読谷村に来ると約束しました。国際通りでの自由行動はどれだけ時間があっても足りないほど楽しかったです。この3日間の修学旅行で、色んな人と話ができ、友達も増えたので良い経験になりました。(2組 女子)

「修学旅行」

那覇空港に着くと、6月とは思えない暑さ、肌をジリジリと焼く太陽から逃げるようにバスに乗り込みました。バスの中から外を見ると、エメラルドグリーンの海がどこまでも続いています。ガマに着き中に入ると電気なしでは真っ暗で、僕はいったいどこに立っているのかわからなくなるほどでした。その後、平和の礎を見に行きました。礎には日本人の名前だけではなく、外国人の名前も刻まれていました。悲しく、つらい思いをしているのは日本人だけではなく、外国人も同じなのだ、戦争はどちらの国の人々の心にも穴をあけるだけだから絶対にしてはいけないと思いました。

2日目はマリンスポーツをしました。シュノーケリングでは魚がたくさんいて綺麗でした。ドラゴンボートは気持ちよかったですけれど、海に落ちてしまいました。昼からは民泊がありました。民家の人に色々な場所に連れて行ってもらい、一緒に夕食を食べました。とても美味しかったです。

3日目、とうとうお別れの時が来ました。楽しかった分、辛かったです。大人になったら沖縄に住みたいと思うほど、楽しい修学旅行でした。(2組 男子)



「沖縄修学旅行」

まず、こんなにも沖縄県の魅力を感じることができたり、平和のことについてたくさん知ることが出来たのは、修学旅行に行くまでにたくさんの人の協力があって、準備ができていたからだと感じました。忙しい中、放課後に集まってどうしたら皆がやる気になるか考えてくれた学年生徒会の人たち。学年皆でどう笑いを起こすか考え、当日たくさん笑わせてくれたレク係。1から細かいこと決め、修学旅行をやる気にさせてくれた方々。皆の笑顔を見逃さず、写真を撮って下さった写真屋さん。ご飯や部屋を用意してくださり、色んな体験をさせてくださり、沖縄の方々の暖かさを伝えてくれた知花さん。いつも家事を手伝っていないのに、修学旅行のために、たくさん買い与えてくれた親。たくさんの人々の協力があって、こんなにも素晴らしい修学旅行が経験できました。 (3組 女子)

「修学旅行を終えて」

僕が修学旅行を終えて一番印象に残っていることは、平和セレモニーです。初めの練習では全然できなかったのですが、練習を重ねるごとに声が大きくなっていき、本番で一番良い群読になったと思います。「HEIWAの鐘」は、練習から良いものができていて、本番ではもっとできると思っていたのですが、少しだけズレてしまって残念でした。

次に印象に残っていることは、新里さんの講話です。実際に体験されたことも細かく教えていただき、戦争の残酷さが改めてわかりました。中でも、魚雷で船がやられたら海へ飛び込めと言うのがものすごく怖いと思いました。

修学旅行の一番の目的は、楽しむことよりも沖縄戦の悲劇をしっかり学ぶことだと思っていたので、達成できたと思います。また、新里さんの話を次の世代へ伝えていくことは僕達の役目なので、新里さんの話を忘れずに生活していきたいです。

楽しかったことで印象に残っていることは、2日目のマリンスポーツです。大阪で体験できないことができ、とても楽しかったです。また、民泊では色々なところに連れて行ってもらい、おいしい晩御飯や朝ごはんをいただきました。修学旅行では学ぶこと、楽しむことの両方達成することができてよかったです。 (3組 男子)

「中学校生活最後の修学旅行」

1日目は、ガマ体験をしました。ガマの中で明かりを消して暗闇体験をしたのですが、想像以上に暗く、暗闇の中で本当に苦しい生活をしていただのだと思いました。夜のレクでは、みんなが笑ってくれ、レク係としては安心して出来ました。

2日目のマリン体験は、ドラゴンボートに乗ったり、シュノーケリングで魚を見たりして楽しかったです。民泊では、波平さんにお世話になりました。波平さんは笑顔のたえない素敵な方でした。夜にサーターアンダギー、紅いもち、ゴーヤチャンプルなどを作りました。ゴーヤチャンプルは大阪の作り方とは違い、苦味も少なくおいしかったです。

3日目は早起きして沖縄の豆腐を作りました。大阪の豆腐とは違い、しっかり味があっておいしかったです。国際通りでは、おいしいものをたくさん食べ、お土産も買えて幸せでした。この3日間すべてが最高に楽しかったです。 (4組 男子)

「経験」

私が修学旅行で一番学んだのは、ガマ体験でした。懐中電灯を一人ひとり持たないと本当に見えなくて、足元も滑りました。ここで生活するとなると、移動するだけでケガをしてしまったり、爆弾も飛んできて、おびえることしかできない生活だったと思います。何もしていないのに死ぬということは残酷で、あってはならないことだと改めて思いました。

一番楽しかったことは、マリン体験のドラゴンボートです。最初は少しドキドキしたのですが、いざ乗ってみるとすごく気持ちよくて、みんなで「もっともっと」と言って速くしてもらい、より楽しかったです。沖縄から大阪までドラゴンボートに乗っていきたくて思いました。それほど楽しかったです。

他にもクラスの子と色々な話ができ、ホテルでは皆ではしゃぎ、笑いが絶えませんでした。民泊の夜は、あまり話しをしたことがない子とも話をして盛り上がり、すごく楽しかったです。皆との仲を深めることができたと思いました。

感謝したいことは、まず、沖縄の天気です。沖縄は梅雨のシーズンにも関わらず、傘をささずに過ごすことができました。そして、ホテルの方、民家の方、戦争のことを後世まで伝えてくれている方々に感謝しています。ありがとうございました。 (4組 女子)

「修学旅行」

ずっと楽しみにしていた沖縄に行きました。1日目は平和学習で平和の大切さを学びました。平和セレモニーの群読では、どのクラスも声がでていて良かったと思います。合唱では、初めて外で歌うということもあり、練習のときよりもうまくできなかったけれど、しっかり最後まで歌いきれてよかったです。資料館では、戦争のことについて色々なものがありました。中には目を背けたくなるものもあり、二度と戦争は起こしてはいけないと改めて思いました。そして、新里さんの話では、戦時中の苦しさなど貴重な話を聞くことができました。

2日目のマリンスポーツでは、普段体験のできないことができて楽しかったです。民泊でも普段体験できないことをさせてもらいました。畑仕事は思っていたよりも大変で、畑仕事を毎日している方は大変だなと思いました。また、晩御飯は僕たちで作ったのですが、いつもであればお母さんがしてくれていることを自分ですることは大変で、お母さんの苦勞がわかりました。良い経験ができました。

3日目は国際通りでたくさんのお土産が買え、楽しかったです。良い修学旅行になりました。しかし、帰りの飛行機の中で勝手なことをして注意を受けてしまったので残念でした。残りの学校生活ではこういうことがないように気をひきしめていきたいです。 (5組 男子)

「沖縄修学旅行」

私は修学旅行の3日間でたくさんのことを学ぶことができました。特に命の尊さ、私たちが今いる環境のありがたさを学びました。その2つのことは、特にガマで学ぶことができました。ガマの中はとても暗く、懐中電灯なしでは何も見えず、足場も悪く、歩くのも怖かったです。しかし、当時の人々はそれが当たり前で、今私たちが住んでいる環境をとってもありがたく感じました。そして、命の尊さはガマの一番奥の破傷風患者の方々がいたところで感じました。そこは一番空気が重く、ガイドさんの話の中で一番残酷で、悲しい気持ちになりました。なぜなら、そこから生きて帰れた人はいないそうです。70年前、確かにそこに人々がいたのです。何とも言えない気持ちになりました。戦争は、良いことなど1つも無いと思いました。例えそれで景気がよくなったとして、喜ばしいことなのでしょうか。二度と戦争は繰り返してはいけません。私はそれを沖縄で多くのことと共に学びました。戦争をしない未来をつくっていくには、きっと私たち一人ひとりがその心をまず強くもつことだと思います。この修学旅行は私の人生にとっていい経験になりました。 (5組 女子)